

2023年度の授業

受講者数は1クォーターでは84人、3クォーターでは72人で、合計156人でした。今年度も人数にばらつきがあるものの、すべての学部から学生が参加していました。



グループワークの様子

各グループは、次のような地域課題に取り組みました。

若者が戻ってくる街づくり／商店街の活性化／待機児童の問題／男性の育児休業取得率が低いこと／地域共生社会の構築／地域医療の現状と解決策／地域活性化につながる避難施設づくり／香川県の人口減少と過疎化／小豆島の人口減少と移住者／徳島県の山間部における過疎化問題／淡路島の空き地問題と労働力不足／離島における交通弱者の問題／西興部村のPR活動促進

受講者の感想

DRIというものがどんなものであるかを理解することができた。地域課題の解決をテーマとして実際に自分でDRIの思考法を実践できてよかった。他学部の生徒と交流する機会ができたため新鮮な感じがした。考える視点がそれぞれ異なったため刺激的だった。レポートやパワーポイントなど様々な経験を積めてよかった。(医学部1年生)

大学に入ってから初めてのグループワークメインの授業が「はじめて学ぶDRI」で良かったなと率直に思いました。今までにも何か現状で起こっている問題に対する解決策を考える活動はしてきたのですが、今回DRIについて学んだことで新たな思考のプロセスを身につけることができ、問題解決の切り口が増えました。今後、大学生として様々なことを学ぶ過程で必ず役に立つはずだと思っています。(法学部1年生)

実際に具体的な地域課題を考えていくとデザイン思考、リスクマネジメント、インフォマティクスとは何かを具体的に理解することができた。また、DRIの観点を用いた解決策は一時の表面的な解決策でなく長期にわたり、改善していき、次第に良くなっていくような解決策に自然となっていくのが非常に良いと感じた。また、現代に適した、そして現代ならではの考えを積極的に取り入れることができているということも、地域課題について考えているときに強く感じた。せっかく学んだDRIをこれからも生かしていきたいと思う。(教育学部1年生)